

令和5年度 第1回医療系フォーラム実験小委員会 議事概要

- I. 日時： 令和5年6月19日（木） 13:30～15:00
II. 場所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会
III. 出席者： 片岡主査、神原委員、廣井委員、原島委員、山元委員、小原委員、中山委員、
二瓶委員、井端事務局長、森下主幹

III. 資料

- ① 令和4年（2022年）度事業報告書
- ② 令和5年（2023年）度事業計画書
- ③ 医療福祉情報系分野連携遠隔PBL 授業LP制作「コンテンツ設計の考え方」

IV. 議事概要

1. 令和4年（2022年）度の事業報告について

資料①を用いて以下のように事務局から報告された

(1) 2022年度の医療系フォーラム型実験小委員会では、2021年度の実験授業の結果を踏まえて、高学を対象に実施する実験授業のデザインを検討し、6月から8月に医学・歯学・薬学・看護学・栄養学・社会福祉学・情報コミュニケーション学分野の3・4学年を対象にして、ウイズコロナ時代の持続可能な医療と健康生活の実現に向けた解決策を提案する「分野横断型PBL 実験授業」を5回行い、多分野の視点を取り入れながら問題解決に取り組む授業デザイン、授業環境、授業運営等の研究と有効性の検討を行った。

(2) 授業の成果を総括すると、これらの取組みを通じて、コロナ禍と共存していく上での本質的な問題は何か、メディア、精神心理、情報リテラシー、食、医療など幅広い問題を抽出して問題発見・整理を行い、問題点の優先順位の決定や課題設定、解決策の検討、解決策の説明などが実施できたと思われる。

(3) 参加学生のアンケートで「①とてもそう思う」と回答した割合からも効果がうかがえるが、学修意欲や充実感などについては課題も残した。

- ① 今回のPBLによって、学修意欲が高まったが6割
- ② 他のループメンバーとのディスカッションで、問題への興味がさらに深まったが7割
- ③ 他学部(科)学生とディスカッションをしたことは、自分にとってよい刺激だが9割
- ④ 今回のPBLを通じて、コミュニケーションの重要性が理解できたが7割
- ⑤ 他学部(科)学生は、今の自分にはない専門的な知識を所有していたが10割
- ⑥ 他学部(科)学生と協力して、グループプロダクトを作成することができたが5割
- ⑦ PBLが終了して、充実した気持ちであるが5割
- ⑧ PBLを通じて、自己学修や他学部生への説明に、十分な準備をする必要性が理解できたが10割
- ⑨ 興味深いと思ったことについて、さらに学修をしようと心がけたが5割

(4) 改善すべき点

① 2022年度の実験授業では、すべての学生が他の分野の学生に説明する難しさを痛感し、十分な準備が必要であることを理解しており、興味深いと思ったことに関してさらに学修しようと思った学生が2021年度の2倍であった。分野ごとに課題設定、課題解決を行う方法は、ファシリテーター教員からのアドバイスも受けやすく、「十分な準備が必要」と認識されるので、他の分野を知り、自分野を知るといふ分野連携授業の第1段階に適しているのではないかと考えられた。多分野のグループで課題を決定し、解決を行う方法は、他の分野を知った上で、他の分野といかに連携するかを知る第2段階に適していることが示唆された。

② 多分野グループで共通の課題を決定する際の問題点として、テーマが大きい場合には多様な問題があがるため絞り込みが難しいことが考えられる。各分野の特徴をよく把握した上で、それらの強みを活かした解決策を検討しやすい課題を選択するようにすることが重要であると考えられる。今回の結果を活かして、以下のような2段階からなる分野連携授業を構築していきたい。

医療系を中心とした分野連携フォーラム型実験授業
(2段階からなる分野連携授業)

【テーマ】

健康長寿社会の実現を目指す持続可能な医療・健康生活を考える。

<第1段階>

【対象】 第2学年、第3学年

【授業の進め方】

他の分野を知り、自分分野を知るという分野連携授業として、多分野のグループ(G1、G2)に分かれて、健康長寿社会に向けた問題発見を行う。次に分野別チームに分かれて、ファシリテーターの指導のもと課題決定と対応策、解決策の検討を行い、発表の準備をする。多分野のグループ(G1とG2の合同)で、各分野の課題と解決策、対応策について共有し、討議を行う。

<第2段階>

【対象】 第3学年、第4学年

【授業の進め方】

他の分野を知った上で、いかに連携するかを知る分野連携授業として、多分野のグループ(G1、G2)に分かれて、WITH(ウィズ)コロナ時代の問題発見、課題決定と対応策、解決策の検討を行い、発表の準備をする。多分野グループ(G1とG2の合同)で、課題と解決策、対応策について共有し、討議を行う。

2. 2023年度の事業計画について

資料②で令和5年(2023年)度の事業計画を確認し、具体的な行動計画を以下のように進めることにした。

- (1) 医学・歯学・薬学分野のモデルコアカリキュラムに多職種連携教育の実践が明示されたことを受けて、ICTを活用した分野横断による多職種連携教育の実験を整理して授業運営及び導入に向けたノウハウをとりまとめ公表するとともに、来年度の実験を計画する。
- (2) 具体的な計画として、これまで実験してきたICT活用による分野横断の多職種連携授業のノウハウを10月までにビデオを含めてとりまとめ、医療系大学に公表する。そのための準備を6月から始め、その上で、来年度以降の実験の在り方について計画する。

3. 2023年度の活動内容と具体策について

(1) 活動内容について

- ・ 多職種連携教育のノウハウの取りまとめと公表では、分野横断の「遠隔・多職種連携・ICT活用」授業の報告ではなく、実際に進めていくための方法、ノウハウをビデオで作って行きたい。
- ・ 医療系大学のモデルコアカリキュラムの中に「多職種連携教育」が入ったことで、これから「多職種連携教育をやらう」という大学にノウハウを提供するものとして。

(2) 資料③「医療・福祉・情報系分野連携遠隔PBL授業LP制作」、「コンテンツ設計の考え方」について

- ・ 今までの実験授業で得られた「授業運営」及び「導入に向けたノウハウ」を整理し、これから「分野横断・多職種連携PBL教育」を計画する場合に必要な考え方を提供する資料の「たたき台」として、片岡主査、小原委員、二瓶委員が検討(案)として整理したもの。
- ・ 日本社会事業大学(小原委員)の共同研究助成金の補助を受けることで「医療系大学の多職種連携教育」を支援する「ホームページの作成」、「ビデオ制作」などを行えないかと考えており、実験授業で行ったGoogleスライドやコンテンツ、ビデオなども加えて分かりやすいWebでの紹介を考えたい。
- ・ ここで制作する「ホームページ」、「ビデオ」では、「医療系大学の多職種連携教育」に向けて、私情協の実験・経験を踏まえたノウハウを公開し、大学関係者が利用できるオープン教材のプラットフォームとしたい。

- ・ 実験授業で得られた授業シナリオ、環境設定、コンテンツ制作などのノウハウをビデオ化して、分かりやすく提供するとともに、アクセスしてくれた大学の意見や感想も共有するプラットフォームにしてはどうか。
- ・ 私情協のホームページでも委員会の活動として紹介し、「委員の大学のご厚意で「〇〇大学」のサイトを利用して配信・公開する」と案内してはどうか。

4. 主な意見

- ・ 狙いは「実験授業の紹介と「ちょっと頑張れば我々でもできる」で、先ずはとっつきやすい「2020年度の実験授業、「和泉さん」の事例でノウハウを提供し「先ずはやってみませんか」を狙いたい。
- ・ 資料③の「ランディングページ (Landing Page)」本体は、小原委員の大学 (日本社会事業大学) に置き、私情協からリンクする。委員の大学 (東邦大学) からリンクするなどが考えられる。
- ・ 栄養系の大学でも興味がある大学は活用するのではないかな。
- ・ 多職種連携に向けて、医療系の大学の紹介やマッチングなどの紹介・仲介まではできない。これは、各大学でやってもらう。
- ・ 今までの実験授業で得られた「授業運営」及び「導入に向けたノウハウノウハウ」を整理し、これから「分野横断・多職種連携PBL教育」を計画する大学に公表・提供することは大変良いと思う。
- ・ 2121年度の実験授業のノウハウ (授業資) だとやりやすい。また、テーマは2020年度実験授業の「和泉さん」のケースが分かりやすく良いと思う。いきなり「コロナ」がテーマでは事例として難しい。
- ・ 新しい教育の流れとして良いと思う。他の大学とどう連携するかが課題になると思うが、「社会的なテーマを設定する」、「社会課題でシナリオを設定する」等で、医療系でなくても「あらゆる学部と連携可能」になると思う。
- ・ 2020年度の「和泉さん」のケースでは医療系以外は難しい。このことは明確にしておく必要がある。
- ・ 何百人の学生にいきなりこの授業を行うのは難しいと思う。先ずは少人数からトライアルしてそのノウハウを「各大学の授業目的に合わせて広げていただければと思う。
- ・ 先ずは、「和泉さん」のケースで始め、事例は社会的な課題等にも展開できるようにしてはどうか。
- ・ 多職種連携の学会等でワークショップ等の活用ができるようにしたい。
- ・ マッチングや拡大の方向も検討できるのではないかな。いろいろな多様性があった方が良いと思う。
- ・ 多くの大学のアクセスを期待したい。その中で5大学位が取り組んでもらえると展開しやすく、私情協でワークショップ等の計画をしても良いのではないかな。
- ・ ChatGPTで答えられるようなシナリオでは困るが、このことは考えておく必要がある。
- ・ 興味はあるので考えたいが、どうやってマッチング大学を探すかが課題になる。

- ・ 興味のある大学からは希望を連絡してもらおう。どういう大学が、どういう分野との連携に興味を持っているか。等を紹介するサポートはできるがマッチングは各大学で直接交渉しないとできない。
- ・ 医療系大学の「多職種連携教育」モデルコアカリキュラムは令和4年6月に出ているので各大学は理解しているので、案内すれば反応はあるのではないかと。
- ・ 今回の医療系大学の多職種連携教育を支援する「ホームページの作成」、「ビデオ制作」などについては、片岡主査、小原委員、二瓶委員に「実験授業公開小委員会」としてお願いする。
- ・ 資料③の「実験授業公開小委員会」の委員名は「片岡主査、小原委員、二瓶委員」の順にする。
- ・ サイトコンテンツページ構成案①「医療・福祉・情報系」は「医療・福祉・栄養系」に修正する。
- ・ 資料③の「地域共生社会の実現のために学びあい、身に付ける分野連携力」の表現は、地域を取り、「共生社会の実現のために学びあい、身に付ける分野連携力」とする。（共創の概念も含む。）
- ・ 8月末の完成と9月の公開目指す。そのため8月3日（木）16：00～18：00に委員会を開催し「ホームページ、ビデオ」などの仮アップ版で内容について途中経過を確認する。

7. 次回の委員会

8月3日（木）16：00～18：00 オンライン開催

「実験授業公開小委員会」のから、ホームページの作成、「ビデオ制作」などの状況はメールで随時委員に報告する。